

連合群馬・愛のカンパ 3団体へ贈呈

連合群馬・愛のカンパは、各地協において駅頭や街頭、ふれあいフェスティバルなどで募金を呼びかけ、その浄財を連合群馬と連携のある団体に対して助成を行うもので、今年で2回目の取り組みとなります。

本年の助成団体は、昨年に引き続き「群馬いのちの電話」と「つゆ草」、新たに「工房あかね」を加えた3団体に決定し、8月19日に開催した第23回執行委員会で大橋会長から各団体の代表にそれぞれ20万円を贈呈しました。

群馬いのちの電話

自殺者が後を絶たない現在、生きる希望や気力を失いつつある人々に対して、電話を通して適切な援助を行うことを目的に活動しており、連合群馬の組合員やOBがボランティアで協力しています。



いのちの電話代表の阿部さん

つゆ草

養護学校等に通う心身障がい児に、遊びや文化活動を通して、集団活動、社会適応訓練、基礎的な育成指導を行っています。



つゆ草代表の柳井さん(右)

工房あかね

障がいを持つ人たちの自己表現である創作活動の支援や美術展、バリアフリーコンサートなど障がい者への支援を行っています。



工房あかね代表の小柏さん

안녕하세요
(^_^)/

連合関東ブロック海外交流 韓国視察団

9月23～27日、韓国の労働事情や組合活動を視察する目的で開催され渡辺(渋川地協)・新井(女性委員会)執行委員が参加(総勢19名)しました。

1日目は、韓国労働組合総連盟本部において事務総長をはじめとした役員から、韓国の大衆運動について説明がありました。

2日目は、韓国国際労働財団を訪問し設立までの経過や現在の事業、外国人の雇用許可制などについて、LG電子平沢工場の見学では「キムチ専用冷蔵庫」が大ヒットしたとの説明を受けました。

また、韓国労働組合総連盟釜山地域本部を訪問した中では、加盟組合の業種や産業、正規・非正規比率、年齢・男女構成や産業構造の関係で女性が入り込めない業種があること、若者教育として海兵隊の訓練など取り入れているなどの説明がありました。そして午後には、大仙造船所の見学を行いました。

各訪問先の質問を通してワークライフバランスや長時間労働、男女共同参画など日本と同様な課題を抱えていることを学びました。



LG電子平沢工場にて
※新井執行委員(中段左から2人目)、渡辺執行委員(後段左から3人目)

韓国国際労働財団での意見交換



大仙造船所での事前説明